



学校だより

平成30年度 7月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～
横浜市立岩崎小学校 電話 331-5123 FAX 331-5343



「自分を試す瞬間^{とき}」

副校長 足立 一明

6月14日から16日まで、4・5年生の「御殿場宿泊体験学習」が実施されました。生憎の曇り空で富士山の雄大な姿は臨むことはできませんでした。また、野外炊事では雨に降られましたが、屋根の下で無事おいしいカレーを食べることができました。そんな不安定な天候の中でも、全てのプログラムを実施できたのには驚きです。

さて、学校で行う宿泊体験学習で子どもたちは何を学ぶのか。それは「自分たちの課題を、自分たちだけで考え、試行錯誤し、解決へと導くことができた」という達成感(=成功感)を経験することです。この成功感はいかからの「生きる力」のもととなる自己肯定感や自己有用感の獲得につながるといえます。

今回私が4・5年生に同行し、子どもたちの「チャレンジ」を感じた場面を紹介します。

一つ目は駐留米軍海兵隊の方々との交流を図る『イングリッシュ・ウォークラリー』という国立中央青少年交流の家の新企画からです。その第1回目が岩崎小学校でした。

はじめに各グループの案内人(海兵隊員)紹介がありました。皆、日本語は全く話せないネイティブスピーカーの方のみです。子ども達はネームプレートの表記をほとんど読めませんから、名前も聞いた音で覚えます。何度も必死に聞き取ります。難しい名前を理解するまでには、かなりの時間がかかったことでしょう。次は自分たちの自己紹介です。これは普段の外国語活動で身に付けた会話が役立っているようでした。

いよいよグループごとに時差スタートです。この頃にはずいぶんお互い打ち解けている様子も見られました。このラリーは中央青少年の家付近を英語だけを頼りに、「直進」「右折」「左折」などを繰り返しながら周回し、探索してくるものです。その途中で英単語の「crosswalk」「flag」などを聞き取り、日本語で答える現地問題もあります。約1時間30分ほどの活動でグループごとに戻ってきました。全問回答してすっかり上機嫌な子もいます。普段は子ども達だけでこんな長時間、ネイティブスピーカーの話す英語だけで過ごす経験はないでしょう。でもこの経験で子ども達に「達成感」をもたらせることができたのです。この後のグループ昼食では、多くの笑顔が見られました。3ページにはこのときの楽しそうな集合写真が載っています。とてもよいチャレンジでした。

二つ目は「らしさの表現」です。日頃から「あいさつ遂行」を大切にしている岩崎小ですが、きちんと相手の顔を見てさわやかに大きな声で「おはようございます。」と言い忘れたとき、普段なら「つい、し忘れてしまって…。」「ちょっと照れくさくて…」など、ついつい言い訳を口にしてしまうことがあります。でも交流の家の[集い]で、所員の方から『ここではあいさつをととても大切にしています。』という話を聞きました。続いて、初めて会った他の団体の人たちとゲームをする中で「人とかかわる上で『あいさつ』の意義のようなものを感じ、あいさつの価値」を実感できたようです。それは「岩崎らしさ」の強調でもあり、活動の価値付けにもなります。こうなれば同宿内で一番元気なあいさつをしていたのは、いうまでもありません。

このように子ども達は「明確なめあて(すべきこと)」が意識化されれば、それを遂行することに全力を発揮しようとし、その先には「達成感・できた感」があり、「喜び・自信」を持つことにつながります。この学び方が「自分を試す瞬間」であり、この繰り返しが自己肯定のスパイラルをつかむことになるのです。

最後になりますが、こんな素晴らしい経験が詰まった「宿泊体験学習」を、準備段階より陰で支えてくださったご家族の皆様にも感謝申し上げます。また、岩崎小の子ども達がさらなる成長に向けて、たくさんのよりよい瞬間を迎えることができるよう皆様のご協力をお願いします。